

就労継続B型では、作業収益の向上を目指し昨年度より若干作業時間を伸ばす曜日を設定し、作業工賃アップを目指しました。

個別支援計画作成のための面談に於いて、大半の利用者様が工賃を得る事よりも作業以外の取組みを積極的に取り入れ、安全で楽しく落ち着いて過ごせることを望まれており、生活介護への移籍を希望される方も数人おられました。また、情緒面での不安定さや突発的な行動が頻発し個別での対応を必要とされる方も複数名おり、就労継続B型のサービスのありようについて再検討を行いました。

平成25年度では、港エリアの事業所の施設機能の見直しを実施しました。検討にあたってはエリア全体の事業のバランスも考慮し、今年度末を持って港育成園での就労継続B型は廃止することにしました。尚、継続して就労継続B型を希望される方については、港第二育成園での受け入れを行います。

#### 【港第二育成園】

自立訓練(生活訓練)(20名)と就労移行(30名)で事業実施してきました。しかしながら、両事業とも利用定員が満たせず厳しい経営状態からの改善が急務であるため、就労移行业業については10月1日より定員を10名減らし20名とし給付費の収入単価のアップを図りました。併せて、今年度末で自立訓練(生活訓練)事業を廃止し、来年度より新たに就労継続B型事業の開始を決めました。

自立訓練(生活訓練)では、企業就労に必要な基本的な生活技術の向上を目指しました。

マニュアルの提示だけでなく、手洗い、歯磨きなどは検査試薬を使い洗い残しの部分を目に見える形で確認し、繰り返し行うことで意識を高める事が出来ました。

また、入所年度ごとのグループによる話し合いの機会を定期的に持ち、活動内容についての話し合いを行い、調理や外出等の企画を立てたことにより仲間意識が育ったことは将来の生活に大きな意味を持つことになると思われます。

しかしながら、本事業があくまで企業就労へ向けての前段階としての位置づけにあることから、就労移行訓練に組み入れても問題ないと考え、港エリアの事業所の施設機能の見直しの結果、25年度末をもって廃止することにしました。

就労移行では、25年度は西部就労・生活支援センターとの連携をより深め、利用者様の就労に向け

での取り組みを行いました。中でも、本園独自の簡易職業検査を検討・作成したことは、客観的データによる支援の手がかりをつかむ手立てになる事が期待されます。

具体の求職活動としては、履歴書の書き方や面接の受け方などの練習、ハローワークへの登録、卒園者が働く職場の見学などを行い、企業就労への意欲向上に努めました。

また、実習先として福島育成園の居室階の清掃や生活支援センターの清掃を請け負ったことで、利用者様の清掃業務への関心が高まり、早くも清掃業務での企業就労につながりました。

#### 【ワークスいけじま】

就労継続B型(20名)で事業実施してきました。

これまでと変わりなく、働くことを中心に日課を組み立てました。しかし、年々加齢による課題が大きくなり、ご利用者様ご本人やご家族様の状況変化による対応も求められるようになってきています。

ご利用者様は「働かなければならない」という意識が高いのですが、実際のところ体力的な面での衰えにより長時間の労働は厳しくなっており、ウォーキングなどの気分転換も兼ねた活動を望まれる方も少なくありません。

今後は、ご利用者様の自尊心を傷つけることなく、余暇や生活面でのサポートにサービス内容を展開していけるように検討を進めたいと考えています。

#### 【地域生活支援センター】

大阪市育成会地域生活支援センターでは通勤寮からの事業移行2年目を迎え、今後の事業の有り方について検討、準備をする1年間でした。検討の結果、赤字経営の改善は困難であり、これ以上の法人による経費負担は困難なことから、25年度末での廃止を決めました。

数名の利用者様には期間を繰り上げてのサービス終了ではありましたが、他法人が経営するグループホームや宿泊型自立訓練事業所、一人暮らしなど何とかご本人が希望される住まいを決める事が出来ました。

#### 【ぼると】

ぼるとでは、相談支援事業(併設:区障がい者相談支援センター)と西部地域障がい者就業・生活支援センターを実施してきました。